

テーマ：景気動向指数（10年1月）の予測

発表日：2010年2月26日（金）

～2010年に入っても景気は順調に回復～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ 一致、先行とも改善傾向が続く

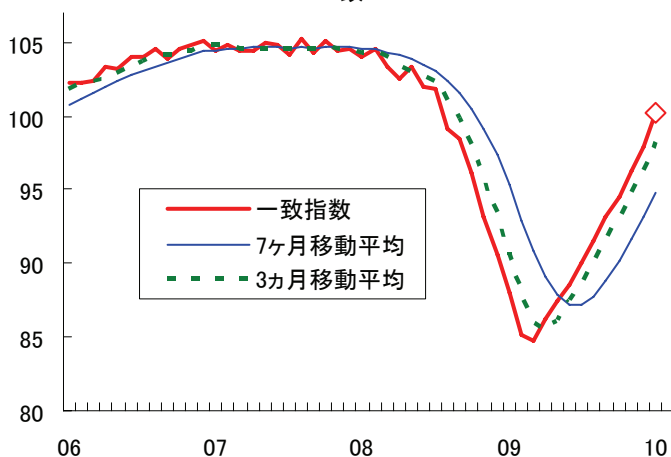
内閣府から3月9日に公表される10年1月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+2.3ポイントと、10ヶ月連続の上昇が予想される¹。輸出の増加等を背景としてC I一致指数は09年3月をボトムとして上昇しているが、2010年に入っても景気が順調に回復していることが確認できるだろう。また、上昇ペースもこれまでよりもむしろ速まっており、景気に減速感が出ている様子は今のところ窺えない。内訳では、投資財出荷指数のみ小幅マイナスに寄与するが、その他の系列はすべてプラスに寄与するとみられる。また、C I先行指数も前月差+2.7ポイントと、11ヶ月連続の上昇を予想する。D Iについては、一致D Iが100%、先行D Iが70.0%が予想される。一致D Iは4ヶ月連続の100%となる見込みだ。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、「改善を示している」が維持される可能性が高い。なお、内閣府の定義によれば、「改善」とは「景気拡張の可能性が高いことを示す」とされている。

景気の山谷の判定はヒストリカルD Iを用いて行うため、C Iの基調判断と景気局面が直接対応するわけではないが、過去の景気の山谷とC Iの山谷はかなり連動している。実際にヒストリカルD Iを計算すると、景気の谷は09年3月となり、一致C Iのボトムの時期と一致する。各構成指標における今後の年間補正・季節調整替えによって09年2月が谷になる可能性も残ってはいるが、今のところ09年3月が景気の谷と判定される可能性が高いだろう。

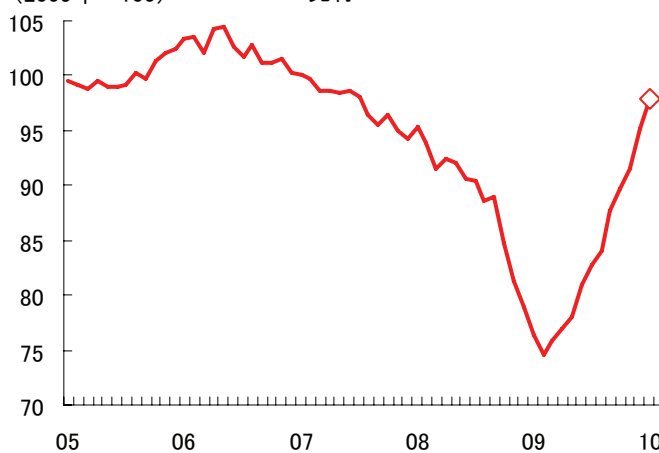
(2005年=100)

一致CI



(2005年=100)

先行CI



(出所) 内閣府「景気動向指数」

※直近の値は第一生命経済研究所予測値

¹ 一致指数の採用系列である有効求人倍率（3/2 公表）、所定外労働時間指数(製造業)（3/3 公表）、先行指数の採用系列である新規求人数（3/2 公表）については、現時点で未公表であるため、筆者が仮置きを行って試算している。また、法人企業統計（季報）が3月4日に公表されることにより、C I一致指数、先行指数の1～3月の水準が遡及改定されることにも注意が必要である。